

図書 紹介

ISO22000 食品安全マネジメントシステム

認証取得事例集 1

監修：米虫節夫（近畿大学農学部）

発行：財団法人 日本規格協会 / 〒107-8440 東京都港区赤坂4丁目1-24 /

<http://www.jsa.or.jp/> / A5版 / 227頁 / 価格 2500円(税別) / 2007年3月23日

発行

近年、食の安全・安心に関連する話題が大きく取り上げられているが、依然としてその根底を揺るがす諸事件(不祥事)が続発している。企業による食の安全・安心面への危害が後を絶たないのが、実情である。その原因の一つとして、企業の体質改善の遅れが想定される。従って、企業の体質改善を推し進めることは、食の安全・安心を追及するうえで、非常に重要な事項である。

このような状況の中で食品安全マネジメントシステムの国際規格であるISO22000が一昨年(2005年9月)に制定された。自社の食の安全・安心に対する意識をより高める手段として、また、消費者の信頼を取り戻すうえで、ISO22000の取得は最善の手法であると考えられる。

本書の特徴の一つとして、食品安全マネジメントシステムの導入に際して、具体的な事例集から学べ、より容易にISO22000の理解を深めることが出来る点が挙げられる。すなわち、本書は解説編と事例編に大きく分けられ、解説編ではISO22000の逐条解説ではなく、この規格による食品安全マネジメントシステムを構築する際に必要な関連知識を詳細に解説し、一方、事例編では既にISO22000の食品安全マネジメントシステムを取得した企業の具体的事例を収録するという構成になっている。次に、本書の内容について以下に概説する。

解説編の第1章は、「TQMの一環としてのISO22000システム構築こそ企業の生き残りの道」と題し、導入部分に始まり、「食品衛生の目的」、「工業5Sから食品衛生7Sへ」、「食品安全の基本は食品衛生7S」、「HACCPシステムは全社的品質管理の土台の上に成り立つ」、「ISO22000:2005の特徴」、「前提条件プログラム(PRP)は食品衛生7Sに含まれる」及び「企業発展と食品安全」を題材に解説されている。

第2章は「流通から見た食品安全マネジメントシステムの必要性」と題し、「消費

者の食品に対する意識は変化している」、「最近の申し出の背景」、「食品の安全。安心とは」及び「安心できる企業を目指して－ISO22000 の必要性」をテーマに解説が加えられている。

また、第3章は「食品安全マネジメントシステムのモデル」と題し、「モデル企業と食品安全マニュアルの概要」、「モデル企業の食品安全マネジメントシステムの特徴」、「食品安全マニュアル(モデル)」をテーマに解説されている。

一方、事例編では認証取得企業二社(金秀バイオ株式会社及び株式会社アイケイ)、コンサルタント機関(二機関)及び審査機関(二機関)を取り上げ、ISO22000 認証取得及び取得に関連する支援体制等についての具体的な事例が述べられている。

本書の中で著者らが述べているように、今後 ISO22000 の食品安全マネジメントシステムを構築しようとするとき、他社の具体的事例は大変参考になると考えられる。本書はこの点を考慮した非常に親切な構成になっている。

また、監修者(编者)は、「本書の刊行は、编者が主宰する食品安全ネットワークの活動がなければあり得ない。」と述べているが、食の安全等を考える団体の存在も、食の安全・安心を追及するうえで非常に大きいと考えられる。

最後に、本書が今後 ISO22000 の取得を考えている企業に対して最良のバイブルとなることを確信し、本書の紹介とする。

(近畿大学農学部 坂上吉一)